

1. 目的

今日は、都市における人間活動において、その活動を保障するエネルギー、水、情報等の付随物値についての需要の大量化、多様化が著しい。また、人間活動そのものも都市空間を複雑に、高密度に利用していく傾向にある。こうした都市における人間活動の様式を支えるために、都市機能の向上、都市環境の保全等の立場から付随物需を主体としてになり施設、すなわち、都市ユーティリティ施設を整備していく必要がある。一般に大都市における空間利用は稠密であり、空間は極めて効率的に利用されることを余儀なくされる。都市ユーティリティ施設においてもその収容空間をいかに確保するかということが重要な問題であり、これを含め都市ユーティリティ施設をいかに計画し、整備するかという課題について考察する。

2. 概要

(1) 問題の基本的構造

都市の過集積に発展して、施設需要が高まっている一方、施設整備の条件が変化していることが基本的な問題である(図-1)。

(2) 都市ユーティリティ施設の考え方

Ⅰ インフラストラクチャとしての都市ユーティリティ施設

Ⅱ 都市活動と自然環境との接点、矛盾解決機関としての都市ユーティリティ施設

Ⅲ 建築設備と連動したシステムとしての都市ユーティリティ施設

Ⅳ 道路占用物としての都市ユーティリティ施設

(3) 都市ユーティリティ施設整備化の必要条件

Ⅰ 需要増加への根本対策として都市成長のコントロール化

Ⅱ 都市ユーティリティ施設を考慮した建築、開発行政の確立

Ⅲ 土地問題の解決化

Ⅳ 需要予測手法、施設計画手法等施設計画条件の改善

Ⅴ 施設システムの技術評価の検討により都市規模、需要密度に応じた施設システムの用装

Ⅵ 施設建設工法の開発、改善

Ⅶ 道路埋設物の整備、管理の強化、改善

Ⅷ 施設配置空間のあり方・可能性、共同溝整備方法の検討等による都市ユーティリティ施設配置空間の確保

Ⅷ 施設の公共性の検討、公共用地空間の確保

Ⅸ 都市計画における都市ユーティリティ施設計画の確立

Ⅹ 都市ユーティリティ施設整備の行政機構・制度の確立

Ⅺ 費用負担方法の確立及び施設整備資金財源の確保

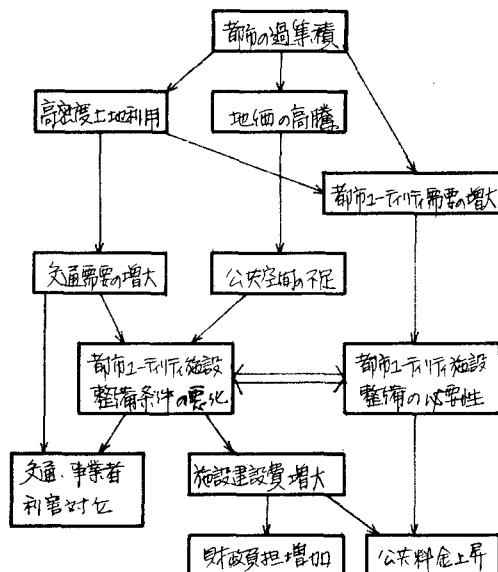


図-1 都市ユーティリティ施設整備の問題のメカニズム